

広報 しんち

9月1日現在

🏠	1.899世帯
♂	4.151人
♀	4.350人
合計	8.501人

43号

49 / 10

みんなそろって体力づくり



体力づくり

マイカー所有者が年々ふえてきており、それに伴って運動不足の人が増加してきています。

そこで朝夕、体操をすとか職場が近い人は出勤時間を早めて歩いてみるなど心がければ、ある程度運動不足は解消できます。お子さんの服装もできるだけ薄着にさせて戸外の気温に対する抵抗力をつけさせてください。

弱いからといって、過保護になりやすいお母さんは、お子さんをもますます弱くしてしまいます。

休日に、車で遠くへお出かけのご家庭でも、ある場所についたら自分の足で自然の中を歩くことをプランのなかに入れておきたいものです。

一家そろってサイクリングはいかがでしょうか。

車の通らない静かな裏道は、意外にお子さんのほうが知っています。車でいけないところを行く、思いがけない楽しさが味わえるというわけです。

とじておきましょう。



だからからも喜ばれる町政を

町長 橋本正一

このたびの町長選挙にあたりみなさまの御支持を得て、三度町長に就任させていただくことになり責任の重大さを痛感いたしております。

私は、過ぐる八年間、明るい町づくりを念願して、小中学校、農業後継者センターなど教育施設の充実。道路、簡易水道、町営住宅など生活環境施設の充実。釣師漁港、たん水防除、溜池の新設改修、ほ場整備など農漁業の近代化。工場誘致、商工会の設立など商工業の振興。保育所、老人憩いの家の建設など社会福祉の向上に全力をあげて参りました。

昭和四十六年に町制を施行し、昭和六十年次をめざして振興計画の「基本構想」をつくり、相馬地の

方共通の目標である「海と緑の健康都市」をふまえながら、「住みよく健康のあふれる町」「産業の豊かな町」「文化と知性の輝く町」の建設をはかることになり、これにそっていろいろの施策をすすめてきました。

この町に生まれてよかったと感じる町に

私の政治の理想は、新地に住むすべての人が、「この町に生まれてよかった」と感じる環境にすることであると信じており、それは「生活環境施設の整備充実をはかること」、「各産業の振興を促進するための下地を整えること」、「社会福祉の充実をはかること」、「教育の向上をはかること」などが基本であると存じます。

これらの中で私は、当面、生活環境施設(道路、簡易水道等)の整備と、農漁業の基盤整備(漁港修築、ほ場整備、かんがい用水施設の整備等)に全力を注いで参り

たいと考えます。

生活と産業の基本的なものの整備をはかることで、町民のかたがたが、そのうえにたつて、各自の生活設計を築くことができ、農漁業の振興はもちろん、その他の産業振興の道が開けてくるものと信じます。

生活環境と産業基盤の整備に対応して、社会福祉の充実と教育の向上をすすめて参ります。

社会福祉については、まずおとしよりの福祉が大きな課題であると考えます。

「憩の家」を老人福祉のよりどころとして、生きがいのある人生を築んでいただくよう、精神的面の充実についても積極的な施策をすすめて参りたいと存じます。

すでに「としよりを大事にする町づくり」を提唱していますが、名実ともにおとしよりにとって楽しいの多い町にするよう御協力を願います。社会福祉は巾が広く、多くの問題を抱えております。

これらの解決には、国や県の施策や制度に待たなければならぬ面もあり、私は国や県に対して常に改善の要望を行って参ります

郷土の人々

遠藤新 (2)

満州において終戦を迎えたが、すでに心臓を悪くしていた。

しかし、新時代を迎えた日本の教育に大きな関心を寄せ、「哲学生な教育と校舎」の論文を発表し六三制の教育に対していくつもの提言を行なった。

二十三年に、CIEと文部省に對し、「六三制教育の学校建築理念」を建言。二十四年から文部省建築審議委員になり学校建築等の指導に当り数多くのモデルスクールをつくった。

二十二年には、ライトから見舞金三千ドルをおくられたが、大金でもあり当時は敗戦直後で日本人にお金をおくことはできなかつたが、マツカーサーの特別のからいで、とどけられた。

二十五年に心臓病が重くなり、東大病院に入院、一時退院して那須高原ホテルなどの設計を行なったが、二十六年に再び入院、六月二十日は死去した。

新の建築理念は、もちろんラライ

トが基本だが、さらにその根底には、農家の構造に対する愛情があった。それは、

「ぼくは福島県の田舎に生れたので、農家の構造をよく知っていた。農家の間どりはかんたんで、しかも統一がとれており開放的のび〜している。現代の住宅は間どり主義で部屋を孤立化しすぎている」と言っていたことからうかがわれるのである。

ここに、新地高等学校時代の作文がある。毛筆のみごとな筆跡で書かれ、美しい文章である。その日は、郷土出身の台湾高等法院長だった高野孟矩が学校を訪ね、お話をきいたあと、一同で鹿狼登山をしたことを書いたものである

「鹿狼山三遊」ノ記 遠藤新

頃シモ花笑ヒ、鳥歌フノ時節トヤ云ハン。四方の山は白雪漸く解ケ、黄色次第ニハゲテ緑色ト化シ、花ハ雪カ雲カト疑ハレ、生々シタル長閑カナル春ノ半バ、空ハ限ナク晴レ渡リ、地ニハ一陣ノ風モナキ一日、例ノ如ク破レタル短カキ袴ヲ着、書物ト頭大ノ握飯ヲ携ヒテ何時ニナキ朝景色ヲ眺メツツ学校ニ着キヌ。(中略)

が、当然町自体としても、積極的に充実をはかってゆく考えてございます。

教育の振興については、「生涯教育」を基本とし、一つには施設設備の充実、二つには指導者の充実を中心とする参りたいと存じます。

学校教育については、一応の整備を完了いたしました。今後は教員や設備の充実を主眼において計画的に充実をはかり、社会教育については、公民館の建設を行ない、これには図書館、民俗資料館結核式場など、教育文化の向上に必要な内容を備え、同時に教育活動計画と、指導者の充実をはかってゆきたいと存じます。

新時代への志向

さて、本町は現在「相馬地域開発計画」という古今未曾有の課題をかかえております。

この計画の目的は、経済的にも社会的にも低位にあることや、若い人たちが他へ転出してゆく状態を改善し、より幸せな生活を築くことであります。

県に於ても、広域的開発をすす

める考えに立ち、新しい「地方中核都市」の建設をめざしてございます

これは農漁業をはじめ、産業の総合的な発展をはかり、上下水道一般道路、街路、公園などの施設の整備をすすめて、新しい田園都市を築こうとするものです。

しかし、これらの計画をすすめるに当って、犠牲になったり、不幸になる人ができることは、厳にさけなければなりません。また農漁業と錯綜する点については、慎重に配慮しなければならぬと考えます。

このため私は、関係地域の方々、よりよい方法や計画についてじゅうぶん話し合いを行ない、みなさまが是認する姿の開発をすすめてゆく考えてございます。

住みよい、だからからも喜ばれる新地町の建設に全力をあげて参りますので、みなさまの御理解と御協力を心からお願ひする次第でございます。



ヨニ於テ其ノルヲ見ル。

英雄ハ三歳ニシテ既ニ英雄タリ

氏が法院長トナル、コレ何ガ所為ナルカ。天カ、否。神カ、否。只

高野其ノ者ノ忍耐、勤勉ノナシタルナリ。人モシ功ヲ立テントセバ

苦ヲ忍ベ。昔ハ人ヲシテ英雄タラシムル材料ナリ。然ラバ我モ登山

ノ苦ヲ忍ビテ絶頂ナル眺望ノ榮ヲ得バヤ(後略)

この一文は、明治三十六年、十三歳のときのものである。

新は郷土の先輩を通して人の進むべき道を見きわめ、鹿狼を越えてはるかに自己の栄光への道に夢を馳せていたのである。

新地歌壇

秋心 三宅夜寸詩

秋潮の黒く渦なし流るるを

まなかににして朝渚に付つ

朽ちし木に秋雨降りて冷えをる

小さき蜘蛛のわたるがあはれ

ま昼日に小豆の莢のはしけるを

きくともなしに聞く心なり

目黒 美津英

すすき穂のはなやぐ果てに鹿狼

嶺の

尾根の紅葉の色冴ゆる朝

白雲の流れゆく下古館の

桜の枯葉散りやまぬかも

新地俳壇

代光 富壽

竹咲いていみじくも作豊かなり

大根時く土やはらかに覚めにけ

り

高稲架の夫に従ひ星殖ゆる

小野 漕 丁

網きよる土間に蟹はふ海の家

顔も手もひたいも汗の指話の人

加藤 白穂

浜風もあり湯上りの扇風機

今日こそは稲にかけばや走り水

共同募金運動

赤い羽根始まる

全国いっせいに行われます共同募金運動「赤い羽根」は、十月一日から十二月三十一日までの三ヶ月間の間行われます。

この共同募金は、寝たきりや独り暮らしのお年寄、心や身体に重い障害をもった人たちのための在宅

援護、子供の遊び場作り、施設の設備の充実に配分されます。

朝出勤を急ぐサラリーマンの方々は町かどや駅の入口付近で「おねがいします」と声をかけられます。ご存じの共同募金は明るく住

みよい町づくりと、不幸な人たちのために役立てようと、社会全体が共同して行う募金活動は昭和十二年から始められたものですが

応募者に赤い羽根を渡すようになったのは、その翌年の第二回からです。

赤い羽根は、正義と勇気を象徴するといふアメリカからの伝来ですが、あざやかな真紅の羽根は、ちょうどこの季節には、どなたにも似合うアクセサリーです。

凶器使用犯罪の未然防止を

最近、凶悪な犯罪が、全国各地で発生しており、また、青少年の中には好奇心から護身用として刃

物、スレンチヤク等を携帯する傾向が見られ、少年の健全育成のうえからもその対策が強く望まれます

幸い福島県内においては凶器を用いた悪質な犯罪は極めて少ないですが、この種の犯罪は模倣性が強く、強力な対策によって未然に防止しなければなりません。

みなさん、ひとりひとりが「器凶は持たない、持たせない」を合言葉に凶器使用犯罪の未然防止に御協力ください。

秋の行楽期の

交通事故防止

一、長距離をドライブするときはあらかじめ余裕のある計画を立てましょう。

二、十分に休養をとり、さわやかな気分で運転しましょう。

三、交通情報をよく聞いて運転しましょう。

四、連続二時間運転したときは、必ず休みましょう。

五、酔って運転は絶対やめましょう。

「酒を飲んだら運転しない。運転をするときは酒を飲まない。運転する人には酒を飲ませない」



八月届出

町長日誌
楊中二

▽出生

おめでとーございます

英幸	西谷	波男	釣師
武一	小泉	武光	町
由香	石田	久男	高田
由美子	目黒	静雄	富倉
悦子	八卷	義意	菅谷
泰幸	菅野	繁生	大戸
智彦	目黒	治光	小川
広敬	目黒	広忠	木崎
静江	渡部	国男	杉目
未由希	菅野	美雄	町
敏子	大堀	忠	町
重男	竹澤	健一	大戸
和美	寺島	三郎	町

▽死亡

お悔み申しあげます

永岡	光雄	駒	町
目黒	きみよ	小	川
阿部	政一	駒	町
鈴木	トミエ	小	崎
小野	斧右衛門	84	小川

八月

21日	駒ヶ嶺3号溜池について打合せ(県庁)
24日	町長選挙告示
31日	町長選挙投票日
九月	
2日	初登庁、相馬地方市町村会
3日	当選挨拶(5日まで)
4日	相馬方部衛生組合特別委員会
6日	県戦没者追悼式
7日	新地・福田・駒ヶ嶺小学校運動会
9日	議会電話総合委員会
10日	山元ゴルフクラブ竣工祝賀式・敬老作品展
12日	駒ヶ嶺無人化反対特別委員会
13日	敬老年金支給
15日	岩代町長町葬
17日	県道拡幅打合せ
18日	交通安全対策審議会
19日	県農林部次長来庁
20日	浜通り傷い軍人会協議会総会